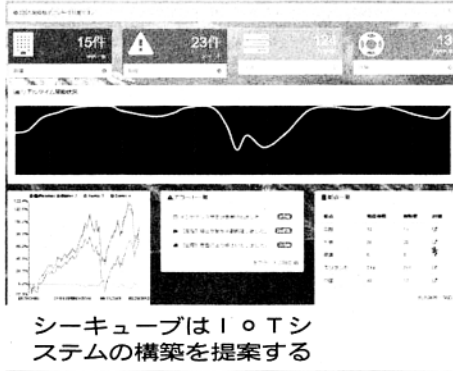


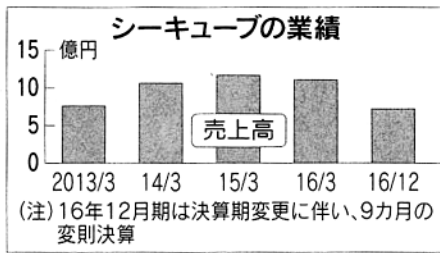
# 工作機械向けIoT参入

## シーキューブ 初期費用を抑制

CAD/CAM(コンピューターによる設計・製造)システムを販売するシーキューブ(新潟市)は、あらゆるモノがネットにつながるIoT分野に参入する。設備稼働状況を把握し故障を予測するシステムを開発し、10月から工作機械メーカーなどに販売を始める。市場の拡大が見込めるIoT分野で5年後に10億円売り上げを目指す。



## 設備故障を予測/AIで改善提案



生産設備にセンサーを取り付け、稼働状況を監視するシステムを9月までに開発する。機器の状態を常時把握することで故障の予測や事前の部品交換が可能になる。人手を介さないため、業務負担の軽減にもつながる。データの特徴を自らとらえる人工知能(AI)の機械学習機能を使い、

設備の機能改善を提案できるシステムも組み込む。一般的なIoTシステムは導入から数年たちデータが蓄積できた段階でAIを導入することが多く、データの変換ソフトが必要な場合が多い。同社のシステムでは当初からAI機能を盛り込むため低価格化につながる。

システムの基盤には、米マイクロソフトのクラウドサービス「アジュール」を採用する。海外工場からのデータも収集でき、顧客の海外進出にも対応できる。

初期費用は約300万円とする予定で、同業他社に比べ価格を抑えたという。年間使用料は20万円から。

同社はCAD/CAMシステムの販売で信越や北関東の製造業約1200社、インターネット販売「CAD百貨」では顧客を1万社ほど抱える。主に工作機械や自動車部

品を手掛ける既存顧客に対してIoTシステムの構築の提案を進める。同社の2016年12月期(決算期変更のため、9カ月の変則決算)の売上高は約7億2000万円

円だった。主力のCAD/CAMで安定した収益を確保すると同時に、人手不足などで市場の拡大スピードが速いと想定されるIoT分野に経営資源を集中させ、「将来の

基幹事業の一つにする」(本川勇次社長)。5年後に同分野で約10億円の売上高を目指す、全社売上高の3割以上を占める事業に育成したい考えだ。